



- 砧1丁目在住
- 生活者ネットワーク 長
- 世田谷区議団幹事委員
- 区民生常任委員会
- 区オウム問題特別対策委員会

### 平成三〇年 第2回定例区議会報告

6月22日～6月13日まで第2回定例区議会が行われました。田中みち子区議会議員と高岡じゅん子区議会議員が一般質問に立ちました。

18日の朝、大阪府北部の地震で、登校中の小学4年女子児童がブロック塀の下敷きになって死亡する痛ましい事故がありました。緊急に世田谷区の中学校ブロック塀の安全点検をすることを要望しました。

### 社会的養護が必要な子どもへの支援について区長が答弁！

目黒区で5歳の女兒が親の虐待によって死亡する事件が起りました。児童相談所が関与しながらも小さなお子さんの命を救うことが出来なかつたのは、とても残念でなりません。このような事件を未然に防ぎ、すべての子どもの権利が保障され、子どもを大切にしている社会の実現が求められています。

世田谷区では、児童虐待の再発や連鎖を断ち切るため、予防型の児童相談体制の構築を目指しています。今後は、永続的な人間関係や生活の場を保障する考えに基づき、特別養子縁組の相談・援助の充実も重要です。家庭養育の

推進や児童養護施設との更なる連携を進める必要があります。一人ひとりがかけがえのない存在として、自分らしく育つ権利を保障し、はぐくむ社会養護の体制が確立された地域社会の実現を重要な使命として担う覚悟だ、と区長から答弁がありました。



子ども食堂で手洗いの大切さを話す田中みち子

### 『香害』など化学物質の情報提供や啓発を！



香りの害『香害』という新しい公害問題が新聞でも取り上げられました。「消臭・香りブーム」やいつまでもいい香りが続くといった宣伝効果もあり、柔軟剤や消臭除菌スプレーなど香料つきの日用品が増えています。他人の衣服に付着した残り香によつて、頭痛、めまい、吐き気、喘息などの症状を訴える人も増えています。

世田谷・生活者ネットワークのアンケート調査の結果でも、近所の洗濯物の香りで気持ちが悪くなった、学校の給食の香りがいつまでも

取れずに困るなど沢山の意見を頂きました。日本消費者連盟や化学物質過敏症支援センターなどでは消費者や患者団体が一緒になって、国や団体に対応を求める要望を行っています。世田谷区では、すでに「家の中の化学物質を見直そう！」というチラシを作成してイベントなどで配布しています。さらに区民に情報提供を行うために、関係所管と連携し、広く区民に周知するよう掲示することを求めた結果、児童館、幼稚園、保育園も含めた公共施設で、対策へ



上げました。区では、平成28年度から社会福祉協議会の実施する「子ども食堂」の運営助成等の取組みを支援しています。社会福祉協議会で定期的に開催している「子ども食堂」の連絡会でも支援を必要としている子どもに、この取組みが広く伝わるような工夫が必要だという意見が多く寄せられてきました。そこで、「子ども食堂マップ」を作成し、掲載を希望す

### 子ども食堂マップを作成！

世田谷区内の子ども食堂は、約2年間で20か所以上となりました。非公開であったり、貧困のレッテル付けにならないよう広く地域に開いたり、それぞれの団体が工夫を凝らして活動しています。

支援の必要な子どもたちに繋がるよう関係機関が連携し周知することが必要であり、今定例区議会で質問に取り

が進むことになりました。また、子どもたちがアレルギーを引き起こす恐れのある化学物質や『香害』についても、学校などで資料を配布し授業で活用し、保護者へも周知していく、と教育委員会から答弁を得ることが出来ました。



シャボン玉月間の活動。生活クラブ運動グループ 世田谷地域協議会の皆さんと保坂区長へ要望

る「子ども食堂」を区民に周知していくことを検討しています。

今後は、マップを各保健福祉センターの生活支援課やぶらっとホーム世田谷が実施している「せたがやゼミナール」、子ども・家庭課が支援している「かるがもスタディールーム」などでも配布し、支援を必要とする子どもに接する機会を捉え、適切に各機関等と連携して取り組むという答弁を引き出しました。

# 世田谷・生活者ネットワーク



区議会議員

## 高岡じゅん子



- 羽根木1丁目在住
- 生活者ネットワーク 会長
- 世田谷区議団 政調会長
- 福祉保健常任委員会
- オリンピック・パラリンピック 環境対策等特別委員会
- 環境カウンセラー

### ブロック塀の緊急点検で街を安全に！

6月18日の朝発生した大阪を震源とする地震で、学校のブロック塀の下敷きになって小学生の女児が死亡しました。このことを受けて文部科学省は、翌日全国の小中学校設置者に敷地内のブロック塀が建築基準法などの法令に違反していないか緊急点検を求めるとの要請文を出しました。

世田谷区では全ての公立小中学校の外壁などについて点検す

るだけでなく、学校以外の区有施設についても安全点検を実施する旨の報告がありました。広く通学路の安全という観点からは、区有施設のみならず個人や民有地の外構についても安全基準を満たすものにしていくことが求められます。

ブロック塀を生垣にすることに対して、区は補助金を出し改善を誘導しており、今後は、このような取組みについても一層の周知を図り、世田谷の街路全体、特に通学路をより安全にしていくよう要望しました。

### 医療的ケアが必要な方の介護者のレスパイトの確保を！



人工呼吸器などの医療的ケアを必要とする障害や難病の方の在宅生活では、24時間の医療的ケアのほぼ全てを家族が担っています。介護者を支援するために、ショートステイなど受け入れ先が必要ですが、区内では受け入れ先がほとんどありません。そこで、今回の質問に取り上げました。

現在、医療的ケアに対応可能な短期入所施設は、2か所16床と日中ショートステイ1か所4床、区内ではニーズに十分対応できないため、府中養育センターなどの都立施設も受け入れています。

そのため、来年4月に開設する梅ヶ丘拠点の障害者施設に、医療的ケアにも対応する20床の短期入所施設と8床の障害児短期入所施設を整備し、緊急の受け入れも行っていく予定です。秋以降、区民向けの案内を丁寧に行い、支援の充実を図っていくという答弁を区から引き出すことが出来ました。

今後も医療的ケアが必要な方や介護者への支援の整備にむけた取り組みが進むよう要望していきたいと思えます。

### 女性の防災リーダー養成を！



東日本大震災直後の厳しい避難所の現状を踏まえて、内閣府男女共同参画局から「女性や子育てのニーズを踏まえた災害対応」を求める依頼文が出されました。

熊本地震においては、一部の避難所では女性のリーダーの活躍により要援護者などへの配慮が行き届いたところもありました。しかし多くの避難所では女性の視点を活かした対応が十分であつたとは言えません。

東京都では、今年の3月防災ウィークセミナーを開催し、一般向けには「東京くらし防災」ハンドブックを配布しています。世田谷区では実施計画に女性防災リーダーの育成が位置づけられ、地域の避難所運営の核となるリーダー層の育成に取り組み始めました。今年度から4年間で、女性防災リーダーの育成を進めていく予定で、リーダー育成研修プログラムをより実践的なものにするよう求めました。

### 母子避難のための福祉避難所を！

災害時に特に配慮を要する妊産婦や乳幼児等を保護する福祉避難所は、世田谷区内の大学・私立高校8校と東京都助産師会、国立成育医療研究センターの計10団体が担うことになっています。区では今年度、開設や運営に関するマニュアルを検討する庁内検討組織を立ち上げ、学識経験者の意見も聞きながら、モデル施設での実施訓練を実施し、開設準備手順や運営方法に関する具体的なマニュアルを策定することになっています。

### 女性の視点を入れた防災まちづくり

「防災対策について学び、みんなで考えましょう」

8月30日(木)10:00~12:00  
@世田谷ボランティアセンター2F  
(世田谷区下馬2-20-14)

- 講師：高橋亜弥子(防災士)  
世田谷ボランティアセンター 災害担当
- 参加費：無料

女性の視点を入れた防災まちづくりについて、実際にすぐ役立つ話をお聞かせします。



太子堂周辺防災まち歩きで点検

### カンパのお願い

世田谷・生活者ネットワークは、カンパとボランティアで活動を進めています。カンパは、一口1,000円からいくらでも結構です。

### 【ゆうちょ銀行】

記号) 00110-1-765709  
店名) 108 普) 0765709  
世田谷・生活者ネットワーク

【編集・発行】2018年7月20日号  
世田谷・生活者ネットワーク 代表/山木きょう子  
〒154-0017  
東京都世田谷区世田谷1-16-16 安藤ビル301  
TEL: 03-3420-0737 FAX: 03-3706-1744  
email: setagaya@seikatsusha.net  
http://setagaya.seikatsusha.me

生活者 No.151  
せたがや